

大妻女大家政 笹本信子

目的

和装は、着物を人体へ着つけて、履物も鼻緒によるために、日常の洋服と靴による洋装とは、装いの様式も大きく異なる。このことから、和装時の歩容を、着装と履物とが歩きの足の運びにどのような影響をおよぼしているか検討を行なった。

方法

被験者の両足底面の踵部位と第1指末節の中腹位に、フットスイッチを貼りつけて、歩行動作時の1歩行周期、ならびに、この間における着地、離地の状況をとらえた。なお、和装は、女物長着（ウール長着・縮緬長着）と長じゅばん（長着と同素材系の長じゅばん）を用い、着装の方法を2種類（裾線を水平・襪先7 cm上り）と履物2種類（下駄・草履）とした。歩行の速度は、被験者の自然歩行時をメトロノームにとり、一定とした。また、記録速度は100 mm / sec とした。

結果

1歩行期については、各実験項目とも差は少ない。着地については、着装によるより、履物による影響が大きく、両者の2要因を寄与率でみてみると、左足の場合、着装0.7%、履物67.6%。右足は着装1.3%、履物63.8%であることが認められた。左足着地から右足着地するまでの時間は、履物による影響より着装による影響が大きく、寄与率は、履物20%、着装20%が認められた。また、重複時間は、草履より下駄による方が長く、下駄は、草履のほぼ3倍が見られた。